



No.7

押しボタン式アンケート収録装置

人の評価を得るために、アンケートを用いるのは一般的にもよく用いられている手法です。最も多く用いられるのは紙に記入する方式のアンケートです。また、テレビ局のスタジオで「○」「×」などの2者択一の回答をリアルタイムで視聴者に見せたい場合には、押しボタンによるアンケートが用いられることもあります。

鉄道総研にも独自に開発した押しボタンによるアンケートの回答を記録する装置があります。この装置は、乗り心地評価の回答を収録するために開発したものです。この装置を使用した乗り心地評価では、5秒毎にボタンを押して回答してもらうことが多いのですが、この装置が開発される前は、評価を紙に記入する時間の制約から、30秒よりも短い間隔での回答は得られませんでした。また、この装

置ではアンケートの回答と車体振動加速度とが同期できるため、特定地点の振動や著大振動の評価を得ることが可能になりました。そのため、本装置は40名程度のモニターによる乗り心地評価試験に多く使用され、乗り心地評価を得るツールとして定着しています。

初代の装置は1988年に開発され、現在使用中のものは2002年に開発された三代目です。制御装置としてノート型パソコンを使用していますが、その他の構成部品は専用に開発したものです。特に、押しボタンの大きさ、クリック感、色、ランプなどは人間工学的に検討したものです。

なお、本装置は国土交通省の補助金を受けて開発しました。

(白戸宏明／人間科学研究部 人間工学研究室)